

氏 名	澤 村 律 子
(ふ り が な)	(さ わ む ら り つ こ)
学 位 の 種 類	博士 (医学)
学 位 授 与 番 号	乙 第 号
学 位 審 査 年 月 日	平成 28 年 7 月 13 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学 位 論 文 題 名	Six-year longitudinal changes in mental health and personality factors among medical students (医学部学生における 6 年間のメンタルヘルスの変化と性格要因)
論 文 審 査 委 員	(主) 教授 米 田 博 教授 寺 崎 文 生 教授 佐 浦 隆 一

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

《目 的》

近年、対人関係の悩み、不安や抑うつ状態などの心身の健康に問題を抱える学生が増加している。特に医学部学生については、過密なカリキュラム、医療現場で行う実習、国家試験など身体的、精神的な負荷がかかることが多く、心身の不適応状態に陥るリスクが高いと考えられる。

そこで本研究では、医学部学生の 6 年間におけるメンタルヘルスの推移を把握し、また入学時に測定した性格要因との関連について明らかにすることを目的とする。

医学部学生へのメンタルヘルス支援を考えるにあたって、彼らの心身の健康の現状、及び関連する要因を検討することは、早期発見と積極的援助だけでなく、予防的支援にも重要である

《対象と方法》

（Ⅰ）対象

2003 年から 2009 年に入学した大阪医科大学の学生で、定期健康診断時に実施する GHQ 精神健康調査（以下 GHQ）の 6 年間のデータが全て揃っている学生、331 名を対象とした。

（Ⅱ）方法

GHQ は、David,G.によって開発された精神的健康を測定する質問紙法で、GHQ 得点が 17 点以上の場合、精神的健康度は低いと判定される。本学では毎年 4 月の定期健康診断時に、1 年生から 6 年生の学生に GHQ を実施している。

またミネソタ多面的人格検査(以下 MMPI)は、Hathaway,S.R.と McKinley,J.C.によって開発された質問紙法の人格検査であり 4 妥当性尺度と 10 臨床尺度で構成される。MMPI は入学オリエンテーション時に 1 年生の学生を対象に行った。

医学部 6 年間の GHQ 得点の縦断的推移をみるために、各学年の GHQ 得点をフリードマン検定を用いて比較した。また GHQ 得点と MMPI との関連を検討するために、6 年間で 1 回以上 GHQ 得点が 17 点以上となった学生を高 GHQ 群（男 133 名、女 68 名）、それ以外を低 GHQ 群（男 92 名、女 38 名）とし、2 群を従属変数、MMPI 臨床尺度の得点を独立変数としてロジスティック回帰分析を行った。

《結 果》

各学年の GHQ 得点を比較したところ、2 年生、3 年生、4 年生が他の学年に比べて有意に高かった。また GHQ 得点と MMPI の関連をみるためにロジスティック回帰分析を行った結果、MMPI の D 尺度（抑うつ尺度）と Pa 尺度（パラノイア尺度）において関連を認めた。

《考察および結論》

医学部学生の 6 年間におけるメンタルヘルスの縦断的推移を分析した結果、2 年生、3 年生、4 年生が他学年に比べて、精神的健康度が低かった。これは、2 年生は解剖学など

のような医学的専門科目が始まることがストレスになっていると考えられる。また3年生、4年生ではクラブ活動などにおける対人関係のストレス、PBLなどのアクティブラーニングにおいて高いモチベーションを保つことを求められるなど負担が大きいと考えられた。

またメンタルヘルスと性格要因の関連を検討した結果、自信欠如、将来について悲観的、対人関係での敏感さ、猜疑心といった性格傾向が精神的健康度と関連していた。医学部学生はグループワークや臨床実習などにおいて、コミュニケーションスキルを求められることが多く、自信欠如で対人関係に敏感な性格傾向はストレスを感じやすいと考えられる。

したがって医学部学生へのメンタルヘルスの予防的支援には、1年生のカリキュラムからコミュニケーション教育や研究室での活動を導入することで、学生の対人スキル、コミュニケーションスキルを伸ばすことが重要である。

論文審査結果の要旨

近年、心身の健康に問題を抱える学生が増えており、特に医学部学生は、他学部学生と比べて、過密なカリキュラム、医療現場で行う実習、国家試験など身体的、精神的な負荷がかかることが多く、心身の不適応状態に陥るリスクが高いとされている。

申請者は、医学部学生のメンタルヘルスにおいて、早期発見や予防的支援を考えるにあたり、GHQ 精神健康調査（以下 GHQ）とミネソタ多面的人格検査（以下 MMPI）を用いて、医学部学生の 6 年間ににおけるメンタルヘルスの縦断的推移を把握し、また入学時に測定した性格要因との関連について検討をした。その結果、2 年生、3 年生、4 年生時が他学年に比べて、精神的健康度が有意に低かった。また自信欠如、将来について悲観的、対人関係での敏感さ、猜疑心といった性格傾向が、学生の精神的健康度と関連していた。

本研究の知見から、医学部学生はグループワークや臨床実習などにおいて、コミュニケーションスキルを求められることが多く、自信欠如で対人関係に敏感な性格傾向はストレスを感じやすい。したがって 1 年時のカリキュラムから、コミュニケーション教育や研究室での活動などを導入し、学生の対人スキル、コミュニケーションスキルを涵養することが、医学部学生のメンタルヘルスの予防的支援において必要であることが示唆された。

大学生や医学部学生のメンタルヘルスについては多くの研究がなされているが、本研究のように縦断的研究を行ったものは少ない。今後、性格要因だけでなく、他要因との関連を検討することが必要であるが、本研究が医学部学生のメンタルヘルスの予防的支援に寄与するものと考えられる。

以上により、本論文は本学学位規程第 3 条第 2 項に定めるところの博士（医学）の学位を授与するに値するものと認める。

(主論文公表誌)

Bulletin of the Osaka Medical College 61(1,2): 35-40, 2015